

二二五五番

我がやどの 秋萩の上に 置く露の いちしろく
しも 我恋ひめやも

二二五六番

秋の穂を しのに押しなべ 置く露の 消かもし
なまし 恋ひつつあらずは

二二五七番

露霜に 衣手濡れて 今だにも 妹がり行かな
夜はふけぬとも

二二五八番

秋萩の 枝もとををに 置く露の 消かもしなま
し 恋ひつつあらずは